

幻影・十之丞さんの庭 矢島勝昭

●菊池寛記念館を訪ねる。三年前の秋のことだった。不忍通りを北に折れ、弦巻通りへ出て電柱の雑司が谷1丁目32番の標識を探す。記念館の所在地のはずなのだが建物が見当たらない。その辺は工事現場の鉄板が巡らされているばかりで、日曜日のせいか人影もない。工事現場の塀沿いに歩くと一か所青いシートが風に揺れていた。シートを押すと難なく中へ吸い込まれ、街の喧噪が遠退いた。目を凝らすと鬱蒼とした樹林の奥に茅葺きの一軒家が客待ち顔に佇んでいる。

●横へ回り開きの間から覗くと茶室、待合室、勝手などが見え、軒にこの家の名を印したとおぼしい板切れが見えたが、文字は判読できなかった。振り向くと眼下に川が流れ滝が音をたてている。土木工事で水脈が切られたのか、滝の幅は2メートルばかり、高さは3メートルを超えていた。透き通った流が落ち口にみなぎり溢れ、水音は外の道にまで聞こえていた。

●足の向くまま坂を下って滝の下へ出た。前後左右どっちをみても里山の渓谷に踏み入ったように素晴らしい。爪先上がりに対岸を登ると滝上の清流は幅1メートル半くらいで底は浅いがみなぎった流は縁石を洗っている。川中に敷かれた平石を踏み超え足を濡らさずに涉りきると右に左に小路や小山が続く。小山からは御嶽台地の遙か彼方池袋を行き交う人々の姿が一望におさめられ、右の方へ歩くと泉水は大河に見立てて渚に舟を繋ぎ出島からは岸に向かい足を八方に張った蜘蛛手の橋が渡され、巧妙な樹木と岩の組み合わせはいちいち面白く別世界を思わせる。

●泉水に沿って行くと、茂林松柏の彼方、世俗を離れた風雅な数寄屋造りの家に行き着く。空色の暖簾は鎌と輪とぬの字を染めていてどうやら「庭

見物はかまわぬが、もてなしはしない」と解された。しかし、それに反して主の翁は縁側で薄茶煎茶、芋の煮転がし、それに酒などを馳走してくれ、話によれば、この翁は若いころ癪もちで体も弱かったそうだが、近頃は勤めの合間に晴雨に関わらずここへ来て、農夫のように植木の枝を刈り込み、隅々まで箒で掃き清め、体を動かし疲れさせ起居動静に暇をつくらないので無病健康になったと話された。

●翁に礼を述べ席を立ち、ひと叢の藪を抜けるとまた青い工事用シートが目に映った。継ぎ目に手を入れると、ふわり秋の陽射しの眩しいアスファルトの道へ放りだされた。帰宅して本棚を探る。

●やはりそうだった。そのあたりは麹町に住む幕府鉄砲頭980石、長田十之丞右兵衛翁の抱屋敷1807坪「潭弦亭」のあった処だ。屋敷は文化10年(1813)百姓市郎兵衛から譲り受け、文政8年までの12年間十之丞が愛し、のち宮崎采女へ譲渡したもので、潭弦亭とは雑司が谷台地を潤して流れた弦巻川にちなんだ名で、太田蜀山人先生もこの辺の地名「清土」を織り込み

流れ出るみなみ清き土なれや
つるまき川の滝の白いと

と詠んでいる。

●翌日同所へ行ってみた。塀の中の樹木は何処にも見られず、ただパワーショベルが忙しく左右に首を振っていた。

(参考文献) 遊歴雑記(1829年)

御府内場末沿革図書付図(1852年)
柳下家文書(1853年)

緑のこみちの会……今年の予定

緑のこみちの会とは、墓地廻りの生垣を守り育てる会です。年6回、土曜日の午前中に近所の方々が集まって、花を植えたり、生垣まわりの清掃をしています。

是非、お手伝いにきてください。どなたでもいつで

も参加できます。平成13年度の予定は下のとあります。詳しくは、街づくり公社にお問い合わせください。

4/21 7/28 9/1 11/17 12/8 3/16

(財)豊島区街づくり公社 街づくり第二係

電話 3981-4734

●企画・発行

雑司が谷地区まちづくり協議会
池袋南地区まちづくりの会
財団法人 豊島区街づくり公社
☎ 直通3981-4734／丸山・北島・上野
豊島区都市整備部まちづくり推進課
☎ 直通3981-2611／鈴木・西口・橋本

●編集協力

株式会社 エコライン
☎ 5706-6031／小野
豊島区広報印刷物

ぞうしがや

きれいに生まれ変わった墓地

雑司が谷墓地の万年塚の撤去工事が、3年の時間をかけ、第3期工事も無事終了して完成しました。これまでの間、地元の皆様にはご理解とご協力をいただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申しあげます。

さすがに広大な雑司が谷墓地だけあって、工事を行った外周部の延長は1120mにも及びます。これまで万年塚に囲まれて中の様子もなかなか判りませんでしたが、いざ工事を始めてみると、いろいろな場所がありました。墓地と車道の間に歩道をつくることができた所、墓地内に散策の道をつくることができた所、生垣にすることができた所、空間に余裕がなくてフェンスにツタをからませた所、フェンスだけの所。場所場所でその表情はまちまちながら、だからこそ工夫や苦労の跡が偲ばれる墓地廻りとなりました。

このようになりっぱな整備ができたのは、協議会からの長年に渡る要望と、それを受け入れた東京都のご理解、側面からの豊島区のご支援と共に、地元の皆さんのが協力がなくてはならないものでした。3年にわたる工事のたびに、関係する住民の方々にお集まりいただいた懇談会は7回におよびました。その都度、厳しいご意見やご声援をいただきましたが、緑豊かで安全に避難できる避難場



所にしたいという協議会の姿勢を多くの方々にご支持いただけたと思います。

墓地の廻りをきれいにしたばかりではなく、協議会では「緑のこみちの会」をつくり、維持管理にも取り組んでいます。地域に親しまれる生垣としてみんなで守り育てていきたいからです。おかげさまで協議会からの呼びかけに答えて、73名もの住民の方がこみちの会に参加して、花を育て、生垣まわりの定期清掃をしています。

墓地の外周部は完成しましたが、まだまだ取り組まなければならないことはたくさんあります。協議会の役割は続きます。

売却せず活用を 雑司が谷地区合同協議会 豊島区長に提言

大きくかわる学校

今、地区では学校が大きく変わろうとしています。高田小、日出小、雑司谷小の3つの小学校が統合され南池袋小となります。雑司谷中は高田中と統合され千登世橋中となりました。統合された3つの小学校は、4月から旧高田小学校を仮校舎にして南池袋小となります。3年後の平成16年度には旧雑司谷中を建替える新校舎に移ります。すでに旧高田中は建替えられ、平成14年度から千登世橋中となります。このように地区はもちろん、豊島区はじまって以来の大変革がなされようとしています。



学校の役割

地区のまちづくりからこの学校の変革を見ると、いろいろな問題点も出てきます。学校は教育施設であるばかりではなく、社会教育、防災、コミュニティ、みどりと空地、歴史と文化など、さまざまな役割を持っているからです。それらの役割が急に、しかも3つもなるということは、地区に大きな変化をもたらします。例えば防災機能をみると、学校は災害時の救援センターとなって、災害時の情報の受伝達、消火活動や救援救護活動の拠点、避難所など、いろいろな役割を持つことが地域防災計画で決められていますが、これまで4つあった救援センターが1ヶ所になってしまいます。

区長への提言

廃校となる3つの学校の跡地はどうなるのでしょうか。日出小や雑司谷小は幹線道路に面しているた

雑司谷小学校の跡地利用 50年の定期借地で

豊島区では跡地を活用する方法を検討してきましたが、協議会からの提言を受けて2月15日に三協議会合同の場で雑司谷小跡地利用の方針を説明しました。

土地は売却せずに借地の形で貸し出します。50年の定期借地とし、地代を一括で受け取ることによって、区の財源の確保もめざします。土地を貸し

福祉施設と住宅

出す相手は都市基盤整備公団などの住宅を供給する公的機関で、社会福祉法人や医療法人などを交えて、豊島区に不足している介護福祉施設を整備するとともにあわせて公的住宅を整備します。

今後、公的機関の選定、福祉法人等の公募を行い、平成13年度には設計に着手できるようにしたいとのことです。

教育委員会への要望書

学校跡地に関する提言書を豊島区に提出して休む間もなく、雑司が谷地区三協議会では、新設される南池袋小についての要望書をとりまとめ、2月2日に、豊島区教育委員会に提出しました。南池袋小の基本設計が3月に終了し、4月からは実施設計を行う予定になっており、意見を反映していただくには、一刻も早く要望する必要があったからです。

三協議会では教育委員会の担当者から、計画の考え方や進み具合を聞いたあとに、要望書を取りまとめました。要望は次の5つの項目になっています。

地域に開かれた小学校

まちづくりや防災のことを考えると、学校が地域と親しみやすく、地域に開かれた環境となっていることが大切です。敷地や施設の中が外部からもよく見えることや、敷地の一部を外部から使うことができ、塀も低いものにするなど適度に開放されること、施設が住民にも開放されることなどが望されます。

日常利用と防災を配慮した通路

南池袋小は東通りと東京音大や鬼子母神などの空地や緑地を結ぶ位置にあ

南池袋小を地域の拠点に

雑司が谷地区合同協議会 豊島区に要望書

ります。ここに南北を結ぶ通路などがあると、平常時にも災害時にも役立ち地域の安全性や利便性を向上させることが期待されます。学校教育のじゃまにならないような工夫をしながら、通路などをつくることが求められます。

防災機能の強化

南池袋小は地区で唯一の救援センターとなります。飲料水や生活用水、消火用水などさまざまな水を確保すると共に、備蓄や情報手段の充実、エネルギーの確保、避難所機能の充実などが必要です。また、弦巻通りでたびたび起こる水害を防止するために雨水の貯留機能も確保したいところです。

緑化の推進

旧雑司谷中の中庭は歴史的価値の高い緑地です。これを残し、さらに緑を充実させることによって、地域における緑のネットワークの充実を図ることができます。

計画への住民参加

要望書の内容が計画に反映されると共に、これからもより多くの住民が計画に参加できるように、住民参加の方法を確立することが必要です。

池袋南地区 アンケート調査の結果

昨年11月末に実施した池袋南地区のアンケートの結果がまとまりました。このアンケートは池袋南地区で行われる防災生活圏促進事業の参考にするために行われたものです。ご協力いただいた皆様には誌面をお借りしてお礼申しあげます。

アンケートは、地区の全世帯2513件を対象に用紙を配布し、396件(15.8%)の方から回答をいただきました。郵送による回収の割には高い回収率で、地区的皆さんの意識の高さが伺われます。

アンケート結果の詳しい資料は、池袋南地区の

方だけに、このまちづくりニュースに挟み込んで配布いたします。その他の地区の方でアンケートの結果をご覧になりたい方は、豊島区まちづくり推進課までおいでいただければ、ニュースをさしあげます。

●アンケートについてのお問合せは

豊島区まちづくり推進課 担当：鈴木、西口
電話：直通03-3981-2611